

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 0 5 0 2 2 9 8		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム 厚宮館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号 (電話) 011-802-3456		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】 (平成 20年 8月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年10月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤12人, 非常勤6人, 常勤換算12.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円 (生活保護受給者 36,000円)	その他の経費(月額)	光熱水費: 15,000円 暖房費(11~3月): 9,000円
敷 金	(有) 40,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 70 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル・平岡公園こじま歯科クリニック・新札幌ウイメンズクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム厚宮館は、四季折々の草花を楽しむ事が出来る遊歩道に面した、自然豊かな環境に位置している。平成15年にグループホームの必要性と地域貢献を考えて母体の医療法人が設立したホームで、建物もバリアフリーで広々としており、玄関も温かみのある落ち着いた雰囲気である。内部には家族の面会や宿泊にも利用出来る個室があり、家族や面会者に対するきめ細かな配慮もされている。管理者は、代表者の思いを汲みながら介護職の経験を生かし、設立当初より、地域の人と一緒に歩んで行きたいという地域に密着した運営を心がけている。サービスの質の向上を目指し、新人職員の育成にも力を注いでいる。利用者も個性を豊かに表現し、明るく笑顔が絶えない日々を送っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で示された契約書と重要事項説明書の記載事項の統一、職員間の連絡事項の周知、実務経験に応じた研修、物品の保管方法など積極的に取り組み改善されている。積極的な市との連携は、まだ進んでいない状態である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価については、全職員が評価の意義を理解し日々のケアに生かす努力をしている。今回の自己評価は、管理者と一部の職員が参加して評価表を作成し、他の職員は評価結果に目を通し内容を理解している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は開催されているが、昨年は1回のみで開催にとどまっている。行事や地域交流、家族からの意見などが議題に取り上げられ、家族などの参加者からも積極的な意見が出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「優YOU通信」を発行し、利用者の様子を家族に伝えたり、訪問時は積極的に話をして利用者の状況を伝えている。管理者をはじめ、職員は日々のケアの気づきのきっかけとしても家族からの意見は貴重ととらえている。外部の苦情受付機関も書類に記載し説明している。以前出された苦情は、会議で話し合い結果を書面で回答している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、草刈りや花植え、運動会などにも利用者と職員が参加し、積極的に地域の人々との交流を図っている。運動会においては、利用者を地域の人が見守り、職員全員で綱引きに参加するなど、地域住民とのよりよい関係が築かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が有する能力に応じ、可能な限り自立した生活ができるように支援するという理念を基に、平成15年の開設当初より、家庭的な環境の中、地域社会の一員として積極的に地域活動に参加できるよう支援するという理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、居間、役員室など事業所の要所に掲示し、管理者をはじめ職員一人ひとりが理念の意義を理解して日々のケアに取り組んでいる。仕事の中やミーティングにおいて、理念に基づく介護が出来ているかを確認し、利用者の立場に立ったケアが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、草刈りや花植え、運動会などにも利用者と職員が参加し積極的に地域の人々との交流を図っている。運動会においては、利用者を地域の人が見守り、職員全員で綱引きに参加するなど、地域住民とのよりよい関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された書類の統一、連絡事項の周知、実務経験に応じた研修、物品の保管方法など積極的に取り組み改善されている。今回の自己評価は、管理者と一部の職員が参加して作成し、他の職員は評価結果に目を通し内容を理解している。	○	全職員が評価の意義を理解し、日々のケアに生かす努力は見られるが、今回の自己評価は、一部の職員の参加で作成されたので、次回は、全職員で更なる積極的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されているが、昨年は1回のみの開催にとどまっている。行事や地域交流、家族からの意見などが議題に取り上げられ、家族などの参加者からも積極的な意見が出されている。	○	今後も、運営推進会議を家族などからの意見を貰う場として活用して、回数を増やして定期化して行きたい意向なので、その取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、事務手続きの連絡だけの関わりになっているため、市、区役所などとの交流はあまり取られていない。	○	今後は、事務手続きなどの際、担当者と少しずつ関わりを深めながら、事業所の悩みや意向を話して理解して貰うと共に、利用者のサービスの向上に役立つような関係作りを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「優YOU通信」を発行し、利用者の様子を家族に伝えたり、訪問時は積極的に話をして利用者の状況を伝えている。金銭出納帳は、家族の訪問時に見せて確認印を貰っているため、家族の訪問が無いと、報告も不定期になる状態である。	○	今後は、毎月「優YOU通信」と一緒に、金銭出納帳のコピー、利用者の写真とコメントを書いて家族に送る予定なので、その取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者をはじめ、職員は日々のケアの中で気づけない部分があるので、その気づきのきっかけとしても家族からの意見は貴重ととらえている。外部の苦情受付機関も書類に記載し説明している。以前出された苦情は、会議で話し合い結果を書面で回答している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列のグループホームが設立された時に異動はあったが、今後は異動の予定はない。ユニット毎の異動は数人あるが、常にユニット間の交流があるため、利用者がダメージを受けるようなことは現在まで起こっていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、目の離せない利用者も多く思うように参加出来ない状態であるが、職員の実務経験に応じて、会社の勤務扱いで受講出来るようにしている。管理者は、母体の病院などの研修も含め、内部研修において新人育成に力を入れていて、日々の細かなケアから熱心な指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区グループホーム管理者連絡会で、勉強会や交流が図られ、事業所間の見学会が行われている。職員も他の事業所の見学や交流をすることで、サービスの質の向上をめざしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は、家族と本人が可能な限り見学に来て生活の様子を見て貰うようにしている。本人が見学に来た時は、他の利用者と一緒に体操をしたり、行事に参加して貰う事もある。入居後は、職員が会話の橋渡しをしたり、中心的な利用者と仲良くなって貰うようにして、全員に溶け込めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況を把握し、調理の手伝いや食材の区分け、漬け物作りや畑仕事などを教えて貰うなど、支え合う関係作りが出来ている。夜勤帯には、利用者が他の利用者に目配りしてくれるなど、支えて貰う事も多く、職員も常に感謝の気持ちを伝えながら支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的に思いや意向を表す利用者が多いので、全てに対応する事は難しい時もあるが、利用者の意向を優先して対応している。外出希望に、時には休みの職員が対応する事もある。表現が困難な利用者に対しては、日々の関わりの中で意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者と担当者が利用者視点のアセスメントセンター方式を使用し、本人、家族の意向を反映させ原案を作成している。その内容をカンファレンスで意見交換し、完成させた計画書を家族に提示し同意を得ている。また、本人にも可能な限り説明し了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送り時や毎月の会議で利用者の状態と課題を話し合い、また、介護記録も参考にして定期的な見直しを行っている。入退院などで心身の状態に変化がある場合にはカンファレンスを開き、必要に応じて新たな計画を作り直し、本人・家族の同意を得ている。	○	現在、変化がなくても、3ヶ月ごとの定期的な見直しを進めているところなので、利用者、家族の意向を確認しながら新鮮な目で継続的な見直しに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院との医療連携体制から、早期に対応し重度化の防止に努めている。状況に応じて通院や外泊などの送迎、また、家族室を用意し要望には柔軟に対応している。運営推進会議では住民の相談を受ける呼びかけをしている。		

外部評価	自己評価	項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		協力病院による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を実施し、常に相談できる関係を築いている。また、他病院の受診も可能であり、基本的には家族の同行になっているが必要に応じて受診に同行し主治医との連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		入居時に、重度化に関する事業所の方針を文書で説明し了解を得ている。病状の変化が生じた時には、家族、主治医と話し合い、職員とも方針を共有しながら支援し、常時、医療処置が必要な場合は病院での看取りについても話し合い、その都度方針を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		職員の言動に節度をもった対応を基本にしているが、本人の意向を受け止め親しみを込めた呼び方で関係を作っていることもある。入浴時や排泄などのケアでは自尊心に配慮して、さりげなく対応している。個人情報の書類などは適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		大枠の目安はあるが、利用者は自主的に行動することが多いので、その行動を見ながら対処している。外出、散歩の希望者には同行し、居間での談笑、居室で過ごすなど、十分な気配りで、その人のペースに沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は料理の味見、下ごしらえの手伝い、食後の片づけなど、それぞれに能力を発揮している。職員は食事やおやつの時には同席し、コミュニケーションの時間として大切にしており、和気あいあいと食事中に会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からは、いつでも入浴できる体制になっており、就寝前にも希望があれば可能である。入浴を嫌がる利用者には実施表の説明で理解を求め、最低でも週2回は入浴できるように促し、入浴をしない時には入浴剤の工夫で足浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の得意な面を引き出し、食事に関する作業、敷地内での野菜づくり、カメの世話、誕生会での挨拶など、その人の力が発揮できるように支えている。編み物、塗り絵などの個人的な楽しみに添い、また、外食や車で遠出も頻繁に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよい時には、事業所前の遊歩道を歩き、ついでに買い物するなど、個別に応じた外出支援をしている。利用者は商業施設の店で食べるのを楽しみにしており、冬季にも出かけるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各ユニットの入口にチャイムをつけ、出入りに注意している。外に出た時は同行し緊急時にも常に対応できるように職員間で連携をとり安全に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・災害発生時のマニュアルは整備され、写真付きで分かりやすい内容になっている。今年の自主訓練で課題が見つかり、今後は地域の協力も得るために、近くに実施される町内会の消防訓練に参加する予定である。	○	次回の運営推進会議に住民の協力を呼び掛けたいとのことなので、近隣を巻き込んだ避難訓練の実施に期待したい。さらに消防署の協力を得て、避難場所や夜間を想定した実施にも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ファイルの健康欄に、水分量、食事量を記載し、個人の好みなどに工夫をしながら必要量を確保している。献立表は委託業者の管理栄養士が作成しており、職員は希望の行事食や嗜好なども献立に取り入れ食事を楽しめるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、和風に設えた玄関内、トイレなどの共有空間は広く明るい。食卓テーブルとソファの配置はたっぷりとしてあり、2Fには畳室が用意され、思い思いに過ごせる環境作りになっている。運動器具の設置や階段の昇降で機能改善にも留意している。利用者と職員で作った季節ごとの貼り絵が飾っており、くつろげる家庭的な雰囲気が至る所に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染んだ鏡台、小物などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。壁には職員が描いた似顔絵の原画に本人が色を塗り飾るなど、職員との温かい交流が伺える。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。